

ご存じですか！文化財

「農耕絵馬」

49

市指定有形民俗文化財
平成12年1月20日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1221)



所在地 新川通738-1 神武天皇社内

農耕絵馬は、明治13(1880)年9月、新川通の神武天皇社に奉献された扁額式大絵馬です。

奉献者の栗原倉之助氏は昭和22(1947)年の大水害当時東村村長であった栗原松寿氏の曾祖父です。絵師は雲峰写と署名されているので、依頼に応じて描かれたものです。奉献の目的は解りませんが農作業の様子から収穫の喜び、神への感謝の念が察せられます。絵馬には当時の新川通村の堤防、舟運などおよび一連の農作

業にこぞつて取り組んでいる姿が、生き生きと描写されています。馬による耕起、苗とり、苗運び、田植え、千歯こぎ、唐箕での選米、倉入りなどの行程が克明に記された農耕図で、今は見ることが出来ない手作業の労苦が偲ばれます。

この絵馬については、次のことが特筆されます。一つは、当該絵馬は県史の通史編近代の口絵に使われていることです。二つ目は、絵師雲峰による同じ構図の絵馬が同じ明治13年4月、栗橋の北広島在地蔵堂に奉納されましたが火災に遭い、消失してしまいました。現存する農耕絵馬が、当時の

の農作業の風俗を知る上で、希少価値の高い民俗資料となっ

ています。紹介者 小沼 良市さん(旗井)



明治13年9月10日(1880年)制作
総高1070 幅1850(mm)
絵師 雲峰